

令和2年度 榛生昇陽高等学校 学校評価計画表

教育目標	個性豊かで、想像力に富み、自信と誇りのもてる生徒の育成		総合評価
運営方針	「生き抜く力」を養い、自信と誇りのもてる生徒の育成（生徒の変容）		
	学び続けることで、知識を豊かにし、コミュニケーション力の向上を図る（教師力の向上）		
	各分掌や学年が機能するよう、部長・主任がリーダーシップを発揮し、意思の疎通を図るとともに、適切にアドバイスする（組織力の充実）		
	報告・連絡・相談の徹底と迅速な対応に心がけるとともに、保護者への連絡を密にし、家庭との連携を図る（リスクマネジメント）		
	各科、コース、部活動、生徒会等が連携して地域交流を積極的に展開し、社会に貢献する態度を養う（地域連携の推進）		
	業務改善の推進と効率的な業務の遂行により気持ちよく働くことができる環境をつくり出す（職員の健康管理）		
○令和元年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標	
<p>生徒の基本的な生活習慣について、一定の成果はあったが、遅刻指導の改善などの重点的な取組は、次年度以降も継続指導が必要である。 また、学校全体の規範意識も向上しているようである。さらに指導方法の改善が必要である。 基礎学力の充実に向けて、PDCAサイクルを確認し、観点別評価を実施していきたい。</p> <p>生徒の希望進路を実現させるために、職員の意識の向上が必要であり、学習方法の改善・工夫や家庭学習を充実させる取組を発展させていく 地域連携については、これまでの取組に対して、一定高い評価は得られているが、学校全体としての参加体制にはなっていない。今後、こども・福祉科（総合学科）や専攻科の設置、宇陀高校開校に向けて、さらに地域との交流を深め、広報活動をもっと積極的に行う必要がある。</p> <p>学年や分掌が機能するように、主任や部長がリーダーシップを発揮し、業務の偏りをなくし、分散することで、業務改善を進める必要がある。</p>	<p>基本的な生活習慣を確立し、正しい判断力と強い意志を養い、規範意識を高め自主的な生活態度を育成する</p>	<p>ルールを守る心を育て、礼儀やマナーを身に付けさせる。 自らの健康を保持増進できる実践力を育て、安全や時間を管理する力を養う。 最後まで、あきらめないうで、努力を続ける力を養う。</p>	
	<p>基礎的・基本的な知識・技能の習得と定着により、着実に学力を向上させる</p>	<p>観点別評価実施に向け、PDCAサイクルを確認し、より良きものに改善する。 学んだことを活用できる力の育成と主体的・対話的で深い学びを実践する。 学習支援を必要とする生徒への対応をする。</p>	
	<p>自己理解に基づき、自己実現への積極的な態度を育成する</p>	<p>キャリア教育の推進と充実を図る。 各種検定の受検および資格取得の推進する。 進学・就職の実力養成講座を充実させる。 個に応じた指導を積極的に取り組む。</p>	
	<p>命を大切に、他者への思いやりの気持ちに満ちた豊かな心を育む</p>	<p>介護施設や教育施設等への実習を充実させ、命の大切さや思いやりの心を育む。 人権尊重の精神と生命に対する畏敬の念を深め、他者とともに主体的に生きる能力と態度を養う。</p>	
	<p>自発的・自主的な態度で自立的に行動できる生徒を育成し、自信と誇りを持たせる</p>	<p>地域との交流を積極的に推進したり、ボランティア活動に積極的に参加したりするなど、社会に貢献する態度を養う。 生徒会・各種委員会活動や部活動を活性化させ、達成感をもったり、社会に貢献する態度を養う。</p>	
	<p>業務改善の推進と効率的な業務の遂行により気持ちよく働くことができる環境をつくり出す</p>	<p>校務の効率化と情報化を図るとともに、情報セキュリティの徹底とサポート体制を確立していく。 学年や分掌の役割を明確にし、各担当に責任を持たせることで、業務の偏りをなくし気持ちよく働くことができる環境を作る。</p>	

分掌	評価項目	具体的目標(小目標)	具体的方策	評価指標
総合企画部	式典や行事の円滑な企画・運営	実施要項・内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の式典・学校行事での役割分担と業務内容を明確にする ・オープンスクールの実施方法・内容について検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事で職員の協力の下、スムーズに運営できるよう、早期の立案を心がける ・オープンスクール開催は年2回とし、専攻科についても検討し、実施する。
	広報活動の充実と各種団体運営の活性化	広報資料・方策の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・Webページにおいて、迅速で正確な情報発信につとめ、ニーズに応えられる内容にする ・地域社会や中学校から適正な評価を得られるよう、広報を充実させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校紹介資料としてWebページの広報内容を精選し、年20回以上更新する ・報道各局への取材依頼に努めるとともに、年5回以上地域や中学校への情報提供を行う
		育友会・同窓会・榛生会事務局運営の円滑化	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体と良好な関係を保ち、誠実な事務局運営に努める ・創立百周年記念行事に向けて、各分野の記念事業の内容を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体と良好な関係を保ち、学校理解・支援のネットワークを作る ・創立百周年記念校内企画委員会の役割分担と業務内容を定める
教務部	基礎的な知識・技能の習得と定着のため、着実な学力向上をめざす	教育課程の実践と編成	<ul style="list-style-type: none"> ・現教育課程を有効に実践する ・新教育課程に向けての研究と編成をする ・情報科の教育課程編成に向けて、調査研究を重ねる 	<ul style="list-style-type: none"> ・「わかった」と実感できる生徒の割合を80%以上をめざす(アンケートの活用) ・新教育課程案を編成する
		授業の工夫と教材の開発	<ul style="list-style-type: none"> ・「学び直し」や「授業の工夫」「ICT機器の有効活用」「在宅教育の進め方の研究・実践」によって、一人一人の生徒の力を最大限に伸ばす取組を、全校体制で進める 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で工夫した取組を全体で共有できるようにする(授業公開の活用) ・ICTの有効な利用について研究し、実践する
		学ぶ態度と活用する力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業や研修講座への参加を通じて、教科指導の実践力の向上に努める ・授業を中核にし、小テストや課題なども活用して、生活及び学習サイクルの定着をめざす 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員が、授業交流・研究授業・研修講座のいずれかに年5回以上参加する ・教育研究所の研修講座、New Education Expo等、校外での研修も活用する
		学習支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援・特別支援を必要とする生徒に対し、学力向上支援員・特別支援教育支援員とともに丁寧に対応する 	<ul style="list-style-type: none"> ・「わかった」と実感できる生徒の割合が80%以上となるよう努める(アンケートの活用)
進路指導部	未来の展望をもち、確かな自己を大切にしながら社会に貢献できる人物の育成を図る	自己分析と成長	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの生き方を考え、将来に対する目的意識をもち、社会に貢献できる生徒を育成する ・そのためにSSシート・進路講演会や学年集会・個人面談などを通して自己を知る機会を提供する 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎学期、学年進路集会を1回実施するとともに、講演会や講座なども1回開催する ・SSシートには具体的に毎日の目標を記入させる
		基礎学力の確立、向上と基本的マナーの養成	<ul style="list-style-type: none"> ・四則計算や割合、漢字の読み書きなど義務教育範囲の基礎学力を確立する ・生徒指導部と連携をとり、服装、挨拶、敬語など社会人としての常識や基本的なマナーを身に付けさせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・OneWeekトライアルを授業中に展開し考查範囲に含めることで、学習意欲を高め基礎学力の確立に努める ・服装、敬語などは授業や講座以外の場面でも指導していく
		各種検定試験、模擬テスト受験の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字、英語検定の受検を軸に看護模試や数学検定など各種検定を受検することで基礎学力の定着を図る ・学習に対する動機付けや自己肯定感の育成とする 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字検定および英語検定3級以上の合格者を40人以上とする ・看護模試や各種検定の延べ受検者数を150人以上とする
		インターシップ、各種セミナー参加の奨励	<ul style="list-style-type: none"> ・インターシップに参加する中で、自己を磨き自己実現の機会を与え、職業観の育成および自己を知る手立てとする ・看護セミナーや美容師体験など様々なセミナーを提供し、体験しながら自己実現を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターシップの参加者を5人以上とし、事前、事後指導も充実させる ・各種セミナーを年3回実施する

分掌	評価項目	具体的目標(小目標)	具体的方策	評価指標
生徒指導部	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を図る	ルールを守り、礼儀やマナーを身に付けさせる	<ul style="list-style-type: none"> ・全校集会、学年集会、HR活動を通して規範意識の向上を図る ・外部講師を招き、インターネットトラブルほか高校生の抱える諸問題について考えさせる機会を確保する ・制服をきちんと着こなすことができるよう、指導の指針を見直し、指導方法を工夫する ・頭髪チェックについては生徒指導部が主導し、学年主任や担任と連携しながら徹底を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートなどを実施して、生徒の意識にどういった変化が見られるか ・生徒指導部会や主任会などで生徒の現状について報告し合い、改善の度合いを把握する
		時間を守り、安全、安心を確保する	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻を減らし規律ある学校生活を送れるよう、放課後に遅刻生徒を全員残すなど指導を強化する ・生徒指導部が積極的に関わりながら、効果的な指導方法を模索する ・生徒、教師ともどもチャイムで授業を始めチャイムで終わる習慣を付ける ・登下校の見守り活動を組織的に確立し、切れ目なく安全を確保する 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻数の変化を職員会議などで共有し、増加傾向にあるのか、減少傾向にあるのか、クラス間の格差について分析を行う ・入室カードの使用状況がどうであったか ・入室遅れの生徒が減少しているか ・登下校時の事故やトラブル、苦情などがないか
		自律心を高め、自己の可能性に気づかせる	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒活動推進部による部活動、清掃活動、ボランティア活動、学校行事への取組を、生徒指導部としてもできる限りサポートし、自己有用感、達成感を抱かせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートなどを実施して、生徒の意識に変化が見られるか、自己有用感、達成感を持つ生徒の割合が増加しているか
		人権意識の向上を図り、差別や偏見をなくし、共に理解し、生きようとする資質や行動力を育成する	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動のあらゆる機会を捉えての人権教育の充実をめざすとともに、そのための「教師の力量」を高めるべく研修の充実・情報の発信に努める ・人権学習ホームルームの実施にあたっては、より早く計画・立案することとし、その打合せにあたっては単に展開案の検討に終わるのではなく、扱うべき課題に対して教師自身がより深い理解を得ることのできるようなあり方を模索する 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体研修を年1回以上実施できたか ・外部研修及び自主的な研修にすべての教員が最低1回は参加できたか ・人権教育にかかわって定期的な情報発信ができたか ・人権学習ホームルームに向けて、分掌・学年で十分な準備ができたか ・人権学習ホームルームの打合せを通じて、教師自身の人権意識の高揚を図ることができたか
		生徒に対する理解を深化させ、それを踏まえた教育実践や支援体制の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解のための職員研修をはじめとし、SNE（特別支援教育）チームを中心とした特別支援教育を推進する全校体制を充実する 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解のための研修の機会をどれだけ設定できたか ・具体的な支援のありようを提示・実践できたか
教育環境部	学校の環境美化を通じて、生徒の環境保全に対する意識を高めるとともに、防災・安全に関するスキルを養う	学校の環境美化のみならず、自身の周囲の環境に関する意識の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動の充実を図るとともに、それ以前に周囲の環境に対しての配慮を忘れない態度を育成する 	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路清掃の実施に際してどれほどの参加を募ることができたか ・清掃用具・状況の点検でおおむね80%以上のプラス評価があったか
		施設・設備の安全の徹底を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の安全点検、及び保守管理に努めるとともに、生徒が施設・設備を正しく利用しようとする態度を育成する 	<ul style="list-style-type: none"> ・修繕を要する箇所に対し、すみやかに対応できたか ・施設設備の正しい使用方法を啓発する機会が持てたか
		地震・火災等の災害から自らの安全を守ろうとする態度を育成する	<ul style="list-style-type: none"> ・教員に呈しては、火災報知器をはじめとした防災にかかわる器具の正しい使用方法を確認し、的確に実践できるように努める ・生徒に対しては、避難経路・避難マニュアルの徹底を図り、防災に関する意識の高揚を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の防災研修にあつて、消火器をはじめとした防災にかかわる器具の使用法の徹底を図れたか ・教師自身が非常時における対応マニュアル・組織分担における個々の役割を理解し得たか
保健体育部	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたり心身ともに健康でたくましく、活力に満ちた生活を営む基礎的・基本的な態度を育成する（体力の向上、食育の推進、健康習慣の確立） ・部活動の活性化 ・学校安全、衛生環境の維持・充実を図る 	生徒自らが健康課題を見つけ、解決するために適切な指導・支援を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・防衛体力、自己管理能力を高め、保健室の利用者を減少させる ・「保健たより」「食育たより」の発行により、「健康」について啓発に心がける 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健室利用者、昨年度より10%減
		運動部活動の意義、取り組む姿勢を見直す	<ul style="list-style-type: none"> ・部員集会を通して、部員が学校生活に与える影響を理解し、学校行事に参画する気持ちを持たせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・退部者を年間で20人未満にする
		「健康」に興味・関心を持たせ、スポーツの楽しさ、身体を動かすことの意義を理解させる	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな体育行事において、より興味・関心を持てるよう企画・運営する 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会・マラソン大会参加率90%以上、新体力テスト偏差値45以上

分掌	評価項目	具体的目標(小目標)	具体的方策	評価指標
生徒活動推進部	自主的な態度で自立的に行動できる生徒を育成し、自信と誇りを持たせる	生徒会、各種委員会活動の活性化	・自主的・自立的に行動できる生徒の育成をめざし、生徒自ら企画・実践を行い成功体験を得ることができるよう指導する	・各種活動において生徒会本部役員や各種委員会委員長、部キャプテンなどが集まり、生徒主導で計画を立案し、運営していきけるよう適切に指導する
		部活動の活性化	・部活動加入率の向上をめざすとともに、生徒の実態に応じた部活動の活性化をめざす	・新入生への勧誘活動を活性化させるとともに、部員集会や部員研修会を定期的に行い、部員生の自覚を促す
		芸術や文化に親しむ態度の育成	・朝の読書や読書に親しむ会を中心に読書習慣を身に付けさせ、豊かな人間性を育てる	・朝の読書に集中して取り組めるように、読み聞かせや放送なども念頭に、内容を工夫して展開する ・読書の啓発活動を創意工夫し、積極的に行う
		地域交流および貢献活動の推進	・地域とともにある学校づくりをさらに充実させ、様々な活動に学校全体で参加できるような体制づくりをめざす	・地域貢献活動にたくさんの生徒が幅広く参加できるよう、参加案内や啓発方法を工夫する ・活動後の報告などを通して校内外に向けたPRを行う
こども・福祉科	社会福祉、保育・幼児教育の学びを通し、社会に貢献する人材の育成をめざす	適切な系列選択の実施	・「産業社会と人間」の授業を充実させ、各人の適性・希望に応じて適切に系列選択できるように指導する ・教員の共通理解をはかり生徒に指導する	・「産業社会と人間」で、系列選択についてのガイダンスを年5回以上行う ・こども・福祉科委員会の会議を年5回以上行う
		充実した体験学習の実施	・こども・福祉科で行う実習施設を確保し、来年度からの実習が円滑に行えるよう準備する	・保育・幼児教育実習施設を9施設確保する。 ・福祉施設を26施設確保する ・施設実習の計画を、系列の特色に応じて適切に作成する
人間探究コース	小学校教諭・幼稚園教諭・保育士を養成するコースとして、豊かな人間性と地域社会に貢献できるリーダーとしての資質の醸成をめざす	幼児教育・保育施設実習の実践と、その充実	・年間3日間の幼児教育・保育施設実習をはじめ、3週間の長期インターンシップや保育園との招待交流を実施し、経験値を増やしていく	・事前指導や事後指導の充実・徹底を図り、毎回レポート等の提出を義務付けて自己の体験を整理させ、その定着を図る
		ボランティア活動の実践と、その充実	・幼児教育・保育施設や地域社会・ユニセフ協会等のボランティア活動に積極的に参加し、ボランティアリーダーとしての資質向上を図る	・年間のボランティア活動への参加を一人6回以上になることをめざす
福祉科	社会福祉に貢献できる人材の育成	国家試験合格率の向上	・国家試験対策講座を夏と冬に実施する ・医師・看護師等の講師を招聘する ・社会人非常勤登用講座を計画する	・3年生対象に年2回国家試験模擬試験を行い平均点80点以上をめざす ・「こころとからだの理解」105時間の授業を担当する医師・看護師を確保する ・社会人講師（年間25時間）の授業を実施する
		施設での介護実習の充実	・計画通りに実習ができるように、準備する ・巡回指導や反省会でうかがった指導者の意見を情報共有し、足並みをそろえた指導を行う	・欠席補習人数・欠席補習回数を40%減らす ・校内実習毎に、事前服装・頭髪点検を行い現場実習に対する意識を高める ・施設実習を行えない場合は、校内実習で対応する ・巡回指導を1施設週2回実施し、指導記録をとり、情報共有を図る
		「専攻科」の設置準備	・専攻科準備委員会を立ち上げ、設置準備を行う ・関係機関への広報活動を行う ・実習施設を探す	・準備委員会の設置を承認され検討会議を3回以上行う ・総合企画部と協力し「専攻科」の広報活動を行う ・実習施設を7施設確保する

分掌	評価項目	具体的目標(小目標)	具体的方策	評価指標
第一学年	学習指導について	基礎学力の定着に向け、学習習慣を身に付けさせ、積み残しのない学習を心掛ける	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた具体的な目標・目的をもたせ、達成感を感じさせる ・各教科の課題、長期休業中の提出物を未提出のままにすることなく、期限を守って提出させる ・朝の読書タイムを利用し読書の習慣を確立する 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト前にアンケートを実施して数値化した目標を、終了後、結果と照らせ合わせ、生徒自身に進捗を自覚させる ・提出物一覧表を本人と共有し、自覚を促す ・各学期の終わりに感想文の提出を課す
	生活指導について	遅刻欠席をしない 部活動の入部を促す	<ul style="list-style-type: none"> ・本人はもとより、家庭と連携を取り合い、状況によっては保護者召喚や学年主任指導を行う ・担任、クラブ顧問が協力し、体験することから始めさせ、加入率を上げる 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間欠席総数10回、遅刻総数20回を超える生徒をなくす ・学年の50%の生徒のクラブ活動加入をめざす
	進路指導について	自己の進路を考え、逆算した行動をとる	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次現在での進路を考えさせ、ワークシートを用い、自己実現に向けて必要な学習や条件等を考えさせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期毎に提出させ、ワークシートの完成状況を確認する
第二学年	学習指導について	基礎学力の向上をめざし、身に付けたい力・必要な学力を明確にし、積極的に自主的な学習態度を育成する	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の能力に応じた丁寧な指導に努める ・具体的な目標・目的をもたせ、それを達成するための努力をさせる ・家庭学習習慣の定着を図るために、家庭学習課題等を課す ・朝の読書タイムを利用し、言語能力の育成を図る ・検定クラブと連携しながら、放課後講座で実力の養成を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートで「授業がわかりやすい」と回答した生徒の割合70%以上をめざす ・SSシートの活用やこまめな個人面談により、生徒個々の目標・目的を把握する ・各教科より週2回以上の家庭学習課題を課す ・朝の読書タイムを継続的に実施する ・実力養成講座、放課後講座を継続的に実施し、生徒参加率を高める
	生活指導について	規範意識を高め基本的生活習慣を確立させるとともに、強い意志で自己を律していこうとする生徒を育成する 自校に誇りをもつ生徒を育てる	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な生徒指導を行い、問題行動が発生しないための開発的・予防的な生徒指導に努める ・道徳教育・人権教育を行い、人としての在り方生き方を大切に育てる ・生徒の自主性を育て、学校行事や生徒会活動に積極的に参加する姿勢を育てる ・チャイム着席の徹底、遅刻や服装に関する指導を学年教員全体で行う ・行事・部活動の充実を図り、社会で活躍するための力を身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートを各学期に1回実施する ・定期的な校内巡視を行う ・学年集会や道徳HRを各学期1回以上実施する ・HRや学年集会、学校行事等で生徒が自主的に活動できる場を提供する ・年間の遅刻総数10回の生徒を出さないよう指導を強化する ・修学旅行参加率100%をめざす
	進路指導について	自分自身を客観的に見つめ、自己の進路と向き合い、個々の進路目標に対して努力させる	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ノートを活用、キャリアガイダンス、講演会、HR等を通して自己の将来設計を抱かせていく ・各種検定試験、資格試験チャレンジ、オープンキャンパス参加等を働きかける ・進路指導部や教務部と連携し、基礎学力の向上はもとより、実力と意欲の養成を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・SSシートや進路のしおりを活用し、個々の生徒の状況を把握するとともに、個人面談を通してこまめな進路指導を行う ・自主的なオープンキャンパスへの参加や、英検、漢検等資格検定を1つ以上持つ生徒の割合50%以上をめざす ・実力養成講座、放課後講座を継続的に実施し、生徒参加率を高める
第三学年	学習指導について	基礎学力の向上をめざし、身に付けたい力・必要な学力を明確にし、積極的に自主的な学習態度を育成する	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の能力に応じた丁寧な指導に努める ・具体的な目標・目的をもたせ、それを達成するための努力をさせる ・家庭学習習慣の定着を図るために、家庭学習課題等を課す ・朝の読書タイムを利用し、言語能力の育成を図る ・検定クラブと連携しながら、放課後講座で実力の養成を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートで「授業がわかりやすい」と回答した生徒の割合70%以上をめざす ・SSシートの活用やこまめな個人面談により、生徒個々の目標・目的を把握する ・各教科より週2回以上の家庭学習課題を課す ・朝の読書タイムを継続的に実施する ・実力養成講座、放課後講座を継続的に実施し、生徒参加率を高める
	生活指導について	規範意識を高め基本的生活習慣を確立させるとともに、強い意志で自己を律していこうとする生徒を育成する 自校に誇りをもつ生徒を育てる	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な生徒指導を行い、問題行動が発生しないための開発的・予防的な生徒指導に努める ・道徳教育・人権教育を行い、人としての在り方生き方を大切に育てる ・生徒の自主性を育て、学校行事や生徒会活動に積極的に参加する姿勢を育てる ・チャイム着席の徹底、遅刻や服装に関する指導を学年教員全体で行う ・行事・部活動の充実をはかり、社会で活躍するための力を身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートを各学期に1回実施する ・定期的な校内巡視を行う ・学年集会や道徳HRを各学期1回以上実施する ・HRや学年集会、学校行事等で生徒が自主的に活動できる場を提供する ・遅刻総数を1学期/100回以内、2学期/150以内の数値になるように継続した指導を行う ・最高学年としての自覚を持ち、何事にも全力で取り組む姿勢を養う
	進路指導について	自分自身を客観的に見つめ、自己の進路と向き合い、個々の進路目標を達成させるために、計画的に粘り強く努力させる	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ノートを活用、キャリアガイダンス、講演会、HR等を通して自己の将来設計を抱かせていく ・各種検定試験、資格試験チャレンジ、オープンキャンパス参加等を働きかける ・進路指導部や教務部と連携し、基礎学力の向上はもとより、実力と意欲の養成を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・SSシートや進路のしおりを活用し、個々の生徒の状況を把握するとともに、こまめな進路指導を行う ・英検、漢検等資格検定を1つ以上持つ生徒の割合が50%以上をめざす ・実力養成講座、放課後講座を継続的に実施し、生徒参加率を高める ・朝講座を実施し、大学進学希望者のサポート体制を構築する